

福富の魅力を守ろう

日時 令和4年 9月 20日(火) 5校時
生徒 第1学年19名 第2学年14名 計33名
授業者 上藤匡史 中川雄貴 飯垣和義 岩本和子
内藤律充 藤井莉穂 瀬尾仁美
場所 1・2年教室

1 単元設定の理由

【単元の見どころ】

○自分たちの意見から、「ごみ問題」や「観光」「ミコシギク」などのテーマを設定し、それぞれのグループが福富の魅力の現状について調べ、福富町のよさと課題を把握したうえで、福富の魅力を守る活動を計画し、実践していく。この活動を通して、自らさまざまな視点で考え、自他のよさを生かしながら協力して取り組むことができる。

【生徒の実態】

○生徒が作成した福富町に対するイメージマップでは、「自然が豊かである」「水がきれい」「エゴマなどの特産物がある」「集客施設がある」といった福富町の魅力につながるものが多かった。しかし、「人口減少」「少子高齢化」などの福富町の課題を挙げる生徒も見られた。また、2学年では「ごみ問題」が多く、1学年では「店が少ない」が多いなど、学年による意識の違いもあった。昨年度の「福富再発見!」の取組により、福富町の魅力についての理解が深まっている生徒は多いが、課題の解決策を具体的に考案することや、情報を校外に発信するなど表現する力が不十分だと思われる。

【単元観】

○本単元は、福富町の魅力を守る活動を通して、自らさまざまな視点で課題について考え、自他のよさを生かしながら協力して課題解決に取り組む資質・能力の育成を図ることができる単元である。グループに分かれて福富町の魅力を守る計画を立て、学習を進めていく際に、地域の方へのインタビューや体験活動等において、地域からの協力を得ることにより、地域の特徴をより深く知るとともに、それらの特徴は人々の工夫や努力によって支えられていることにも気付くこともできると考える。本単元の取組を通じて持続可能な社会の実現に向けての行動を考え、自ら社会に参画しようとする態度を養っていけるものとする。

【指導にあたって】

○様々な視点をもたせる工夫

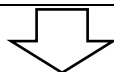
課題の把握、解決に向けて、本やインターネット、聞き取り調査等からの情報収集だけでなく現地調査を行う等、具体的な活動を通して、課題を自分事として捉え、様々な視点で考えさせたい。

○昨年度の学びを生かした取組

中学2学年と1学年は、昨年度とは異なる集団であり、双方違うテーマに取り組んできたが、「福富の魅力について考える」という点においては共通していた。2学年は昨年度生徒自身が気付いた福富の魅力について、1学年は移住者にとっての福富の魅力について探究した。今年度は、それらの違った視点で学習してきた経験を生かし、福富の魅力について1、2学年が協働し、より多くの視点から探究することで、課題解決にあたらせていきたい。

2 単元構想ストーリー

1 年 生	2 年 生	地域との連携 体験活動・資料	生徒の意識の流れ 【自己の生き方を考える力】
	<p>○昨年度の学習を振り返り、1学年に伝える成果と課題についてまとめ、発表の準備をする。</p>		<p>○昨年度の成果と課題について、1学年に分かりやすいようまとめよう。</p>
<p>○昨年度の学習の成果と課題、事前のアンケートの集計結果から、福富町の魅力について再確認する。課題（人口減少・少子高齢化・ごみ問題）を改善するために、魅力を守っていく必要がある。魅力ごとにグループを編成し、福富町を守るためにはどうすればよいか考える。</p>		<p><資料> 事前アンケート 集計結果</p>	<p>○福富町の課題は何だろう。（人口減少・少子高齢化・ごみ問題） ○福富町の魅力を守るためにはどうすればよいだろう。</p>
<p>○テーマごとに担当を決め、福富の魅力を守っていくためにはどうすればよいか、学習の計画を立てる。昨年度のグループにこだわらず、実態に即して新たなグループを編成する。</p>		<p><地域との連携> 情報源にあたる人道の駅 しゃくなげ館 福富グラウンド 福富パークゴルフ場 福富支所 竹仁地域センター 久芳地域センター カドーレ ラベンダーはうす ONGEE HOUSE カントリーグレイン きこりや など</p>	<p>○魅力の現状を知るためには、どのような方法があるだろう。 ○収集した情報は正しいかどうか確認しよう。</p>
<div style="display: flex; justify-content: space-around; text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">水</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">山</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">観 光</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">ギ ミ ク コ シ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">な ご み 問 題</div> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">各 グ ル ー プ で の 活 動</p>			<p>○魅力を守るために、私たちができることはやっつけよう。</p>
<p>○地域の方々へのインタビューや調査活動から、集めた情報の分析や検証を行い、まとめたうえで、中間発表会を行う。</p>			<p>○他グループに聞いてもらって分かりにくいところを改善しよう。</p>
<p>○発見した課題をもとに、地域に貢献できる活動を考え、実践していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々を招いて講演会を開き、福富町の魅力・課題を伝え、共にできる活動を計画する。 ・福富町の魅力マップを作り、町内の様々な施設・事業所に設置してもらおう。 ・魅力を市の広報誌に掲載してもらえよう交渉する。 ・企画を支所に持ち込み、検討してもらおう。など 			<p>○地域の魅力を守る活動を通して、地域に貢献することができた。【地域】</p>
<p>○活動内容、成果と課題についてまとめ、発表を通して情報を共有する。</p>			<p>○自分たちの学びを、次につなげてもらいたい。</p>
<p>○活動を通して身に付いた資質・能力についてまとめる。</p>			<p>○この活動を通して、これからの生活にも役立つ力が身に付いた。【生き方】</p>
<p>○次年度に向けて、成果と課題をまとめておく。</p>			<p>○調べたことを次年度に生かせるよう整理しておこう。</p>



めざす児童・生徒像

福富の魅力について再発見し、それらを発信する学習を通して、福富の地域に誇りを持ち、地域に貢献しようとする意識を高めるとともに、自らさまざまな視点で考え、自他のよさを生かしながら協力して課題解決に取り組むことができる生徒

3 単元の評価観点・評価規準

評価の観点		評価規準	
		A	B
知識 技能	① 知識	○福富町にある資源や施設などの特色やよさを <u>知り、守るべき福富町の魅力について認識している。</u>	○福富町にある資源や施設などの特色やよさを <u>知っている。</u>
	② 技能	○福富町の魅力を守るために、活動を計画し、 <u>目的意識をもって進めることができる。</u>	○福富町の魅力を守るために、活動を計画し、 <u>進めることができる。</u>
	③ 探究的な学習のよさの理解	○活動を通して身に付いた資質・能力は、魅力を守る活動を、 <u>実現が可能となるよう粘り強く探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。</u>	○活動を通して身に付いた資質能力は、魅力を守る活動を、 <u>探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。</u>
思考 判断 表現	① 課題の設定	○福富の魅力をどのように守っていけばよいか課題を設定し、 <u>課題の解決に向けて見通しをもって活動の計画を立てている。</u>	○福富の魅力をどのように守っていけばよいか課題を設定し、 <u>活動の計画を立てている。</u>
	② 情報の収集	○設定した課題の解決方法について、 <u>さまざまな方法を用いて、情報収集することができる。</u>	○設定した課題の解決方法について、 <u>情報収集することができる。</u>
	③ 整理・分析	○収集した情報を、 <u>実現可能かどうかという視点をもって相互に関連付け、福富の魅力を守る活動を見いだすことができる。</u>	○収集した情報を整理し、 <u>福富の魅力を守る活動を見いだすことができる。</u>
	④ まとめ・表現	○福富の魅力を守る活動の成果と課題について <u>見る人が分かりやすいように工夫してまとめ、発表することができる。</u>	○福富の魅力を守る活動の成果と課題について <u>まとめ、発表することができる。</u>
主体的に学習に取り組む態度	① 自己理解・他者理解	○他者との意見交流を通して、自他のよさを見付け、 <u>そのよさを生かそうとしている。</u>	○他者との意見交流を通して、自他のよさを見付けようとしている。
	② 主体性	○課題解決に向けて、 <u>根拠をもちながら、自らさまざまな視点で考えようとしている。</u>	○課題解決に向けて、 <u>自らさまざまな視点で考えようとしている。</u>
	③ 協働性	○自他のよさを生かしながら、 <u>よりよい課題解決の方法を見だし、協力して課題解決に取り組もうとしている。</u>	○自他のよさを生かしながら、 <u>協力して課題解決に取り組もうとしている。</u>
	④ 将来展望・社会参画	○福富の魅力を守る活動を通して、 <u>これからの福富町に必要なこと、自分にできることは何か考え、地域の役に立ちたい、自分の将来をよいものにしたいと考えている。</u>	○福富の魅力を守る活動を通して、 <u>地域の役に立ちたい、自分の将来をよいものにしたいと考えている。</u>

4 単元計画【地域探究学習のみ（全30時間）】

小単元 (時数)	小単元の目標と主な学習内容 ◎ねらい ○学習内容	評価の観点 (評価方法)	教科・特別活動 等との関連
1 (2時間) ※2年生のみ 課題設定の準備	◎イメージマップから福富町のことについて考え、今年度の課題を設定することができる。 ○自分たちの福富町のイメージマップより、福富町に対する自分たちの意識を確認する。 ○昨年度調べた福富町の魅力について、1年生に伝える準備をする。 ○次の1, 2年生で行う導入について、運営・司会の準備を行う。	知① (行動観察)	
2 (2時間) 導入・課題設定	◎福富町の課題についてあらゆる角度から考え、今後の活動の見通しをもつことができる。 ○自分たちの福富町のイメージマップより、福富町に対する自分たちの意識を確認する。 ○昨年度調べた福富町の魅力について、1年生に伝える。 ○今年度の課題, テーマについて考える。	主② (振り返り)	
3 活動整理・分析、情報の収集、 (16時間)	◎各グループで担当したテーマについて、「福富の魅力を守る」ため、活動を計画し、実践することができる。 ○希望に沿って担当テーマを決め、グループ分けをする。各グループで内容の精選を図り、活動の方向性を決める。 ◎収集した情報を整理・分析し、課題の解決のため、今後の活動を計画することができる。(本時9/16) ○「福富の魅力を守る」活動を計画、実践する。	思① (行動観察) 知② (行動観察) 思② (振り返り) 思③ (振り返り) 主① (行動観察) 主③(行動観察)	<中1・2 道徳> C(16) 郷土の伝統と文化の尊重, 郷土を愛する態度 <中2 国語> 郷土のよさを伝えよう —「地域の魅力」の紹介文 <中2 社会> 過疎化の問題 <中1 英語> Project 2 英語のタウンガイドをつくろう <学校行事> 文化発表会
4 (2時間) 表現 展開②	◎中間発表を行い、発表内容の改善を図る。 ○他のグループからの意見を聞き、よりよい発表となるよう工夫する。	思④ (発表内容)	
5 (7時間) 発信 展開③	◎「福富の魅力を守る」ため、どのように発信すればよいのか考え、実践することができる。 ○より効果的な発信方法を考え、実践する。 ○まとめを発表し、他のグループと情報を共有する。	主④ (振り返り)	
6 (1時間) 振り返り まとめ	◎「福富の魅力を守る」を通して、どのような力が身に付いたのか、振り返ることができる。 ○これまでの取組を振り返り、身に付いた資質・能力についてまとめる。	知③ (振り返り)	
※1年生のみ 7 (2時間) 次年度へ	◎次年度に向けて、後輩に伝えるために活動内容をまとめることができる。 ○「福富の魅力を守ろう」の取組で行ってきたことをまとめ、次年度につなげる準備を行う。	知① (行動観察)	

5 本時の目標

さまざまな方法で収集した情報を整理・分析し、新たな課題などを見いだし、福富の魅力を守るために、今後の活動を計画することができる。

6 本時のルーブリック

A	B
<p>☆自他のよさを生かしながら、よりよい課題解決の方法を見いだし、協力して課題解決に取り組もうとしている。</p> <p>○協議を通して、自他の意見を関連付けて、次に活動すべきことを見いだししている。</p>	<p>☆自他のよさを生かしながら、協力して課題解決に取り組もうとしている。</p> <p>○今までの活動を通して考えたことを、意見として述べている。</p> <p>○他者の意見を聞き、思考を深めようとしている。</p>

7 学習の流れ

学習活動と主な発問 (○)	指導上の留意事項 (◇)
<p>1 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>収集した情報を整理・分析し、新たな課題を見いだし、今後の活動の計画を立てる。</p> </div> <p>2 本時の授業の流れについて板書で確認する。 ○今までの活動を通して、分かっていることは何だろう。 ○不足している情報は何だろう。 ○新たな課題は何だろう。</p> <p>3 各グループ（ゴミ問題・観光・水・鷹ノ巣山等）で協議を行う。 ○今後の活動について考え、計画してみよう。 ・どのような視点から活動を行うか？ ・活動を行うためにはどのような準備が必要か？ ・活動によってどのような変化が予想されるのか？ ・他市町の実践事例は？ ・その活動は実践可能か、適切かどうか？ ・誰から情報を収集すればよいか？ など</p> <p>4 協議した内容について、他のグループと共有する。</p> <p>5 振り返りをする。</p>	<p>◆努力を要する状況と判断した児童・生徒への指導と手立て</p> <p>◇どのような活動を行ってきたのか思い出させるために、グループで相談する時間を設定する。 ◇必要に応じて、思考ツールやタブレットを活用させる。 ◇整理・分析する手立てとなるよう、分析する視点を明確にして取り組ませる。 ◇主体的な活動として展開するために、活動を行う目的を常に意識させる。 ◇まとめることを通して、自分たちのテーマについて理解を深めさせる。 ◆意見をもつことが難しい生徒には、振り返りやメモ書きなどを確認させ、困っていることは何か考えさせる。</p> <p>◇①収集した情報、②今後の課題、③活動の計画の三点に視点を合わせて発表することで、他グループと比較し、次時のめあてを明確にさせる。 ◇他のグループの生徒に分かるように、伝え方を工夫するよう意識させる。</p>

8 板書計画

めあて：収集した情報を整理・分析し、新たな課題を見いだしたり、今後の活動の計画を立てたりすることができる。

◎協議

- ・分かっていることは？
- ・不足している情報は？
- ・新たな課題は？ など



◎発表

- ・収集した情報
- ・今後の課題
- ・活動の計画 など

ホワイト
ボード

ホワイト
ボード

ホワイト
ボード

ホワイト
ボード

福富の魅力を守る

～単元における目指す生徒像～

福富の魅力について再発見・発信する学習を通して、福富の地域に誇りを持ち、地域に貢献しようとする意識を高めるとともに、自らさまざまな視点で考え、自他のよさを生かしながら協力して課題解決に取り組むことができる生徒

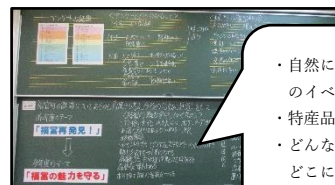
このような生徒の姿を達成するために、以下のような工夫を行った。

主体性を育成する工夫

・課題設定の方法

昨年度の探究の成果と課題を今年度の課題設定につなげるため、2年生が昨年度探究した内容を生に発表する機会を設けた。そうすることで、昨年度もっと調べたいと感じた内容を課題設定に生ことができ、より生徒の実態に即した探究的な学習になるのではないかと考えた。また、生徒自身が現在の福富町をどのように捉えているのかを把握するために、事前アンケートを実施した。昨年度、2年生と1年生は別の異学年集団で活動していたので、昨年度の探究の内容も生かすために、事前アンケートを活用した。生徒自身が興味・関心の高い課題を設定し、自分事として学習を進めるために、昨年度の内容の復習やアンケート結果を分析し、協議して課題を設定した。

課題設定のため、協議内容を生徒がまとめた板書



・自然についてのイベント
・特産品の販売
・どんなゴミがどこに落ちているのか、他の町と比べるなど

・課題別グループの結成、担当教員の配置

設定した課題ごとに、1年生、2年生混成で4～5名の異学年グループを結成した。少ない人数で活動することにより、それぞれが使命感・役割をもち、意欲的に活動することができるのではないかと考えた。また、生徒がどのような思考の流れで課題を解決しようとしているか、正確に把握するために、各グループに担当教員を配置した。その情報を生かすことで、学習がスムーズに進むように、担当教員はより効果的なファシリテートを目指した。

・積極的な地域人材・資源の活用

課題を解決するための情報収集として、地域の専門家に講師として来校していただいたり、現地調査の案内をしていただいたりした。また、課題解決に必要な情報を、体験を通して収集するために、積極的に校外活動を計画、実施させた。そのことにより、自分事として課題を捉え、様々な視点で考え、自分の言葉で表現することができるようになったと考えた。



鷹ノ巣山 登山調査

協働性を育成する工夫

・異学年集団での活動

中学校1・2年生混成のグループを結成し、グループごとに違う課題について探究的な学習を行った。異学年グループで活動することで、普段は関わることのない、学年の違う生徒と協働する機会が増えた。2年生はグループのリーダーと



異学年集団で話し合う様子

して、積極的に1年生と関わっていた。1年生は、先輩から探究的な学習に必要な技能を学び、小学校で学んだ視点を生かして、積極的に意見を述べていた。そのことにより、協議の場に多くの意見が出され、質の高い協働的な学習を行うことができるのではないかと考えた。

● 思考ツールの活用

生徒の協働性を効率よく育成するため、各グループで思考ツールを活用した。情報の整理・分析の場面でYチャートやPMI、座標軸（四象限）、イメージマップを活用することで、互いに自分の考え（情報）をはっきりと伝え合い、その考えを聞き合い、互いの考えの関係を明らかにしながらじっくりと考えることができる。思考ツールは、自分の考えが可視化でき、その考えを移動したり、書き直したりできる。この活用によって、参加している全員が協議内容を理解し、意欲的に協働的な学習を行うことができるのではないかと考えた。



Yチャートを活用

成果と課題

○2年生が昨年度探究した内容を1年生に発表する機会を設けたり、事前アンケートを活用したりすることで、「(福富町について) 質問されても、いつでも答えられるように、これからどんどん活動を深めたい。」「私が福富で体験していないこと、知らないことがたくさんあるから、調べていきたい。」などの振り返りの記述が見られた。自分事として課題を捉え、主体的に学習を進めることができたのではないかと考える。

○生徒アンケートでは、「地域の方との交流を通して、課題解決に取り組むことができる。」の項目において、肯定的評価が6月は78.6%だったが、12月は92.6%と14ポイント上昇した。この変化は、地域の方と協働し、体験的な活動を通して、課題解決を目指した成果であると考えられる。このことを通して、中学生同士の協働では得ることのできない視点から課題について考えることができた。「〇〇の方に、今まで分かっていたことがなかったことや、新しく関連付けて教えてもらったことがたくさんあった。」という振り返りの記述があり、より深く課題について理解することができたと考えられる。

○他にも、「福富町の良さや魅力、課題などについて知っている。」の項目において、肯定的評価が6月は85.7%だったが、12月は96.3%と10.6ポイント上昇した。「福富町はどんなところなのかということを知りたいときに、迷わず答えることができると思う。」というアンケートの記述があり、生徒が主体的に活動を行ってきた成果ではないかと考える。

●積極的な校外活動を計画したが、木曜日の午後のみという時間割の都合から、活動が制限されることが多かった。グループ別に活動しているので、足並みをそろえることは難しいが、1日6時間全てを探究的な学習にあてることで、より質の高い活動をめざすことも考えられる。